

※ 先日終了した「インターバンクの声」に代わり、本日より「ディーラーの独り言」を掲載いたします。

ディーラーの独り言（2018年1月10日）

◆本日の予想レンジ

ドル円 112.20～113.30

ポンド円 151.55～153.50

ニューヨーク株式市場の上昇が止まらない。先週5日にダウ工業株30種平均が初めて2万5000ドル台乗せを達成したが、その後も上昇は続き昨晚もナスダック、S&P500とともに史上最高値を更新している。中でもS&P500の年初からの6日続伸は1964年以来のこと。背景にあるのは今週から本格的に米主要企業の10-12月期決算発表での増収期待があるが、S&P500を構成する企業は、前年同期比+11%近い増益が見込まれている。昨日午前中に伝わった日銀の国債買入れオペでの100億円の減額が緩和解除に向けた地均しではないかとの思惑を呼び、各国中銀の金融緩和の出口戦略が意識されたことから欧州債、米債での利回り上昇につながる中、クロス円での円買いも手伝い、ドル円は昨晚一時112円36銭まで下落した。しかしながら、米10年債利回りが昨年3月以来の2.55%手前まで上昇する中でも株式市場は堅調な動きを継続するなど、投資家のリスク選好姿勢がドル円の下値支援に寄与していると見ていいのかもしれない。日足チャートを見ると昨年11月を起点とした三角持合いを維持している。余程のことがない限り逸脱した動きにはならないだろうと見ている。

また昨日は英国でメイ首相がEU離脱を滞りなく行っていくために内閣改造を行っているが、果たしてどうなるか？

財務相、外務相、内務相等の重要な閣僚は全員留任となったようだが、与党内での対立も囁かれており、今後のメイ首相の政権運営への不安感が払拭できる内閣を樹立できるかに注目している。今後さらにEU離脱に向けて不安の残る内容となれば、ポンドは上値の重い展開が続くことになるが、ドル円の行方を占う上でもポンド円やユーロ円などクロス円の動向にも注意していきたい。

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。